

第1回 NITS 大賞（平成 29 年度）エントリーシート

成田市立下総みどり学園 大徳 正博

A-37

【活動名】 主体的・対話的で深い学びの推進～義務教育学校における校内研修から～

解決すべき課題： どんな問題を解決しましたか？

本校は、義務教育学校として、「9年間の連続した学び」を実現するために、小学校教員、中学校教員の別なく、小学校1年生から中学校3年生までを共通の目標をもって、指導に当たっている。特に学習指導では、主体的・対話的で深い学びを実現するために、全ての学年全ての教科において、「協同的な学び」の理念に基づいた授業実践を研究の柱として取り組んでいる。今年度はその研究の集大成として、11月に公開を控えていた。しかし、以下のような課題があった。

- ・教員の異動により、当初の研究理念が薄れ、「協同的な学び」の捉え方に差が出てきた。
- ・前期課程からの教科担任制の導入により、発達段階に応じた指導目標をどのように設定するか。
- ・小学校、中学校ではなく、義務教育学校の教員として「9年間の連続した学び」の中で、主体的・対話的で深い学びを実現するためにどうしたらよいか。

目的や背景： 解決すべき課題の背景や、活動の目的をおしえてください

本校は、平成26年4月に4小学校が統合し、9学年が一緒に学校生活を送る施設一体型の小中一貫教育校である。今年度からは、「9年間の連続した学び」をいっそう推進するために義務教育学校に移行している。学校経営方針の一つに、小学校教育、中学校教育特有の学校文化と呼ばれるものを超越した「下総みどり学園の文化」を創造することを掲げている。職員室は一つで、異学年による活動が多いことから、日常的に職員の交流があり、「下総みどり学園の文化」は創造されつつある。しかし、学習指導となると、「協同的な学び」を柱とした研究は行っているものの、その利点を最大限に生かした教員個々の指導力を向上させるための研修には結びついていない。

本活動は、小学校教員、中学校教員が、義務教育学校の教員としてそれぞれの「子ども観」、「指導観」、「指導方法」を互いに学び、習得し、一人一人の子どもに即した指導の実践を目指したものである。同時に、主体的・対話的で深い学びについて、共通理解を図るために、研修を行うものである。

活動内容： 何をしましたか？

「研修成果活用部門」については、研修のどのような内容を活用して課題解決につなげたかがわかるように記載して下さい。

本校では、平成27年度から、「協同的な学び」を全ての学年全ての教科で研究し、29年度の11月に授業公開することになっていた。このような中、中央研修に行かせていただいたことから、自校の課題解決のために、以下の取組を行った。

1. 主体的・対話的で深い学びについて、校内研修を行い、理解を深める。
 - ・夏季休業中の校内研修日に、「平成29年度中央研修（第1回副校長・教頭等研修）」（伏木久始「新しい学びの推進～主体的・対話的で深い学び～」）講師資料を活用し、研修を行った。
 - ・小中交流の機会と捉え、ブロック・学年ごとにグループワークを行った。その際、中央研修時に学んだ様々なワークショップを用いて、問題意識の可視化・共有化を図った。
2. 異学年による教科会議を実施し、意見交流を図る。
 - 小中の教員が分かれて行っていた教科会議を、9月以降は一緒に行うこととした。さらに、教科の別なく、指導案検討から授業参観後の分科会にも参加するなど、意見交流の機会を多く設けた。
3. 日常的に相互参観を行うことで、授業改善、指導力の向上に努める。
 - ・2学期は、空き時間はもちろん、授業時に短時間でも相互に参観するよう呼び掛けた。特に、経験年数の若い教員には積極的に参観するよう促した。
 - ・通常、学級担任が行っている教室の安全点検を、ブロック単位で分かれて相互点検を行い、助言し合った。改めて見合うことで、掲示物の作成などもそれぞれの良さを認識する機会となった。

活動の成果： それによって、どんな成果が得られましたか？

これまで「協同的な学び」についての研修を行ってきたが、あらためて主体的・対話的で深い学びについての校内研修を行ったことで、全職員がねらいや手立てについて、理解を深めることができた。特に、ブロック・学年ごとのグループワーク後に行ったノートワークにより、発達段階における子どもの学ぶ姿や、それを支える教師の手立てを具体的にイメージすることができた。また、小中の教員が交流することで、互いの見方や考え方の違いから多くを学び、指導力向上につながった。

指導案検討から授業後の分科会まで小中教員が交流することで、発達段階にあわせた教材の工夫や授業における教師の働きかけについて知る機会となるとともに、個々の授業改善につながった。また、授業の約束事、話し合いの方法やルールなど、学校として共通理解することができた。

小学校教育、中学校教育特有の学校文化と呼ばれるものを超越した「下総みどり学園の文化」を創造するきっかけとなり、教職員の絆がいっそう深まった。

アピールポイント（アイデア）： もっとも、がんばったこと、注目したことをアピールしてください。

主体的・対話的で深い学びの校内研修では、個人思考の時間を確保し、問題意識を可視化・共有化できるように工夫した。具体的には、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の3つの視点から、子どもの学ぶ姿と教師の手立てについて、それぞれ意見を出し話し合った。

経験年数や専門教科を混在化するために、グループ編成はブロック・学年単位とする。

個人で分析し、付箋に記入する。（子どもの学ぶ姿を黄色の付箋、教師の手立てをピンクの付箋）

記入した付箋を模造紙に張り、共通内容はキーワードをつけてまとめる。

視点ごとに、ノートワーク（自由参観）の時間を設ける。その際、互いに質問したり、質問に答えたりする。

1. 校内研修会資料抜粋

主体的・対話的で深い学び

	主体的な学び	対話的な学び	深い学び
子どもの姿	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; background-color: #ffff00; display: inline-block;"> どんなシーン？子どものようすは？ どんなつぶやきや会話？ </div>		
教師の手立て	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; background-color: #ffb6c1; display: inline-block;"> どうしたらいい？大事にすることは何？ ？どんな発問や声掛け？ </div>		

黄色のふせん

ピンクのふせん

主体的・対話的で深い学び

模造紙へのまとめ方は自由です

子どもの姿

目指す子ども像

1. 子どもの姿を考える

①個人でフセんに書く(3分)

②グループでまとめる(5分)

③ノートワーク(2分)

2. 教師の手立てを考える

教師の手立て

2. 校内研修会グループワーク作成例

	主	対	深
子ども	<p>自分から進んで集中に取り組む。</p> <p>小さな疑問質問がある。</p>	<p>互いの意見を認め合う。</p> <p>自分から対等な立場で教え合っている。</p>	<p>深い学びの達成感。</p>
教師	<p>子どもに合わせた課題の設定。</p>	<p>質問への適切な返答。</p>	<p>深い学びの達成感。</p>

主体的・対話的で深い学び

主	対	深
<p>課題発見 (自分だけでなく、他者にも気づかせる)</p> <p>×与えられた課題ではなく、自分なりの課題を設定</p>	<p>視野拡張 (他と他者視点で見る)</p> <p>(各方向に幅を...)</p>	<p>課題追求</p>
<p>意欲向上のための 対等な交換</p>	<p>コミュニケーション能力の 向上のための交換</p>	<p>達成感 (深く納得！)</p>